

# TAC 制度下における漁業資源評価と資源管理に関する研究 2

マグロ類・カジキ類（日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査）

由木雄一・石田健次・安木茂・為石起司\*

## 1．研究目的

マグロ類、カジキ類の安定的な利用確保を目的として、本資源の科学的データを完備するための調査を実施する。国および関係各県の協力の下に実施されるが、本県はマグロ類、カジキ類の市場伝票の整理とクロマグロの生物測定を行う。

## 2．研究方法

### （1）市場伝票調査

主要 6 漁港（浜田・五十猛・大社・北浜・恵曇・浦郷）に水揚げされる、マグロ類およびカジキ類の漁獲量を魚種別、月別、漁法別に整理した。クロマグロについては銘柄別（マグロ・ヨコワ）に分類し、マグロは尾数と体重の集計を行い、ヨコワは平均体重から総尾数を推定した。

### （2）魚体測定調査

浜田港および五十猛港において、ヨコワおよびコシナガの尾叉長の測定を実施した。また、その一部については体重の測定も実施した。

## 3．研究結果

### （1）漁業の概要

本県で漁獲されるマグロ類の大半はクロマグロで、銘柄は体重約 20kg を境にマグロとヨコワに分けられる。次に多い魚種はコシナガで、本種は平成 8 年以降急激に増加した種である。その他のマグロ類はキハダ、ピンナガ、メバチが漁獲される。

カジキ類はバショウカジキ、メカジキ、マカジキ、クロカジキ、シロカジキが漁獲されるが、大半はバショウカジキで、カジキ類全体の約 80% を占める。

本県のマグロ類、カジキ類を対象とした漁業には定置網・釣・まき網がある。年変動があるものの漁獲割合はまき網が 80～85%、次に釣が 10%、定置網が 5% 前後となっている。

### （2）2001 年の漁況（主要 6 港における漁況）

主要 6 港のクロマグロの漁獲量は 1,338 トンで、前年を 18% 下回ったものの、平年を 72% 上回る水揚げであった。内訳は全体の 99.9% がヨコワ（体重 20kg 未満）で、マグロ（体重 20kg 以上）はわずかに 572kg と最近 10 年間で最も少なかった。ヨコワはほぼ周年漁獲されたが、そのピークは 4～7 月と 12 月であった。4～7 月は大半がまき網で、12 月はまき網および釣で漁獲された。夏期の漁獲量が平年を大きく上回り、逆に秋期の漁獲量が少ないという、前年と同様な漁獲状況であった。漁獲されたマグロの体重は 25～69kg で、昨年に引き続き 100kg を超す大型個体は漁獲されなかった。ヨコワの尾叉長は 28～58cm の範囲にあった。その他のマグロ類としてはコシナガ（尾叉長 32～52cm）が 35 トン、キハダが 1.7 トン、ピンナガが 0.4 トン水揚げされた。カジキ類は定置網を中心に 15.8 トンが漁獲された。そのうち、バショウカジキが最も多く 13.3 トンであった。

## 4．研究成果

調査結果は日本 NUS を通じて水産庁に報告され、資源評価の基礎資料として利用された。また、平成 13 年度日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査年度末検討会で報告された。

---

\* 島根県栽培漁業センター